

様式第2号（第3条、第6条、第7条及び第8条関係）

事業計画書（実績書）

令和6年3月31日

団体名 社会福祉法人綾部市社会福祉協議会

<p>事業の目的 （何のために行う事業なのか など、事業の趣旨や目的を記 入してください。）</p>	<p>電気やガス料金、生活必需品や食料品を含む物価が高騰し生活に大きな影響を与える中で、生活困窮者を支援するために行う「困窮者緊急生活サポート事業」（ライフラインバンク）を安定的に継続するための事業を実施する。</p>
<p>事業の名称</p>	<p>生活困窮者緊急支援事業</p>
<p>事業費 （市補助金）</p>	<p>825,000円 （825,000円）</p>
<p>補助金の使途 （団体活動のどんな事業経費 に補助金が充当されるか記入 してください。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米や日持ちするレトルト食品、缶詰等の食料品の購入費。 ・日用品、衣類、寝具、調理用具、暖房器具等の生活用品の購入費。 ・就職面接用のスーツ等の購入費用。 ・食料品や物品を保管するための備品、消耗品、維持管理費用。 ・市民や団体、事業所等に生活困窮者に対する理解を広めるための活動費用、また理解者から物資提供の協力を得る仕組みづくりにかかる費用。 ・本事業に係る人件費。
<p>事業実施期日</p>	<p>令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日</p>
<p>事業実施場所</p>	<p>市内一円</p>
<p>事業の概要 （事業の実施方法、内容につ いて記入してください。）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活困窮者を支援するためのライフラインバンクの整備を進める。 2. 生活困窮者のいばしょと出番づくりのサポーターである「わん★びーす」サポーターの集まる場を設け、生活困窮者に対する理解を市民に広め、物品の寄付や早期相談につなげていただく等の協力者や団体を増やす方法を検討し実践する。
<p>補助金の効果（成果） （計画書では期待できる効果 を、実績書では得られた成果 を記入してください。）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフラインバンクの整備および支援の成果 令和5年度のライフラインバンクによる物資提供は193件。前年度の112件から約1.7倍に増加した。新型コロナウイルスによる生活状況の悪化が継続している世帯や、それ以前から生活状況が悪化している世帯からの相談が寄せられており、物資提供による支援は「助かる」との声が非常に多かった。次の給料日や年金支給日までの間に家計改善等の相談とセットで物資提供を行うことが自立支援を行う上で有効であり、継続的な相談支援を行うことができた。生活福祉資金の交付や生活保護決定までの間など公的制度につながるまでの間に食料等提供により支援するケースもあった。 野菜や米などの食料品や生活用品等を適切な温度及び環境のもと備蓄保管するため、物資の保管場所等が課題であり、旧社協の家つどい（中山町）と綾部市福祉ホール（川糸町）の保冷庫を保管場所として活用できた。 2. 生活困窮者に対する理解を市民に広め、物品の寄付や早期相談につなげていただく等の協力者や団体を増やすための実践の成果 （1）フード・ドライブ事業を初実施した。 名称：物価高騰支援 フード・ドライブ in AYABE「年越し応援プロジェクト」

とき／ところ：

・食料品と日用品の募集：12月1日～12月7日／綾部市福祉ホール
・食料品と日用品の配布等：12月23日（土）10時～16時30分／あやべ日東精工アリーナ

内容および結果：ライフラインバンクから発展し、歳末たすけあい運動の一環として、市民の皆様などに食品や日用品の提供を呼び掛けて、集まった品物を生活に不安や困難を抱えている方などに提供する取組（フード・ドライブ）を初めて実施した。個人・事業所などから93件、2,771点の食品・日用品と、米468kgが寄せられ、個人85世帯、福祉活動団体2団体に提供した。物資の仕分け搬入、当日の運営等に生活困窮サポーター「わん★びーす」に協力いただいた。なお、当日は物価高騰緊急生活支援事業（京都府緊急生活支援事業補助金により京都府社協から委託）によって生活福祉資金コロナ特例貸付を申請された方に案内し申込み来場された方へ年越し支援セット（食料・生活必需品）を配布し、相談を希望される方に生活困窮者自立相談支援事業相談員などが後日相談対応した。

成果：生活困窮者の困りごとに対するたすけあい活動が必要であることを地域課題として市民に協力を呼び掛けることができた。多くの市民などの協力を得ることができ、個人や団体が協力しやすい取組であることが分かった。「家庭で眠っている食品や日用品を提供できて助かった」との声もあった。今後の課題は、大量の物資を保管する場所の確保、物資提供の協力を求める周知や仕分け・配布作業の協力者を求める周知、生活困窮世帯への周知、早期相談につなげる仕組みづくり。

（2）フード・パントリーを初実施した。

とき／ところ：3月29日（金）12～13時／綾部市福祉ホール

内容：京都府社会福祉協議会きょうとフードセンターと食品等の提供・譲渡に関する合意を結んでいる京都生協から、令和6年2月から月1回定期的に食品や日用品を提供してもらい取り組みが始まり、12月に実施したフード・ドライブを参考に、ライフラインバンクから発展する形で初めて実施した。開催目的は以下の4つ。①生活困窮者の困りごとに対して市民に関心をもってもらう、②食料品や日用品の提供など個人や団体が協力しやすい仕組みをつくる、③生活困窮者の困りごとが複雑化する前に早期の相談につながる機会をつくる、④取組に協力する個人・団体と生活困窮世帯の参加によりフードロスの軽減等に貢献する。結果、生活困窮者自立支援事業で相談支援をしている生活困窮世帯へ案内、広報紙「あやべの社協」等で告知し17世帯が来場され配布した。

成果：新たな協力団体と連携し新たな社会資源を開発できた。「処分せざるを得なかった食品ロスを生活に困っている人に役立てられ助かった」等の声があった。

12月に開催したフード・ドライブよりもコンパクトで定期開催可能な形での実践ができた。今後、定期開催を継続するためには、物資提供協力者とフード・パントリーの運営協力者が必要。

（3）出前講座を実施し理解と協力を呼び掛けた。

出前講座先：綾部ロータリークラブ

とき／ところ：3月22日／ふしみや

テーマ：「生活困窮者支援の現状と地域の力」

内容：生活困窮者の困りごとと支援状況、個人・団体の協力によりライフラインバンクやフード・ドライブ等の取組みが実施できたこと、今後の課題について伝えた。

成果：出前講座型で本事業への理解と協力を呼び掛けることができた。

収支予算書（計算書）

令和6年3月31日

団体名 社会福祉法人綾部市社会福祉協議会

（単位 円）

収入の部		区分	予算額	収入済額	明細
		市補助金	825,000	825,000	
		社協財源	0	0	
		合計	825,000	825,000	
支出の部		区分	予算額	支出済額	明細
		人件費	600,000	605,545	担当職員の給与の一部
		事業費	225,000	219,455	消耗品費 177,876 印刷製本費 6,148 手数料支出 500 水道光熱費 34,931
		合計	825,000	825,000	
差引			0	0	